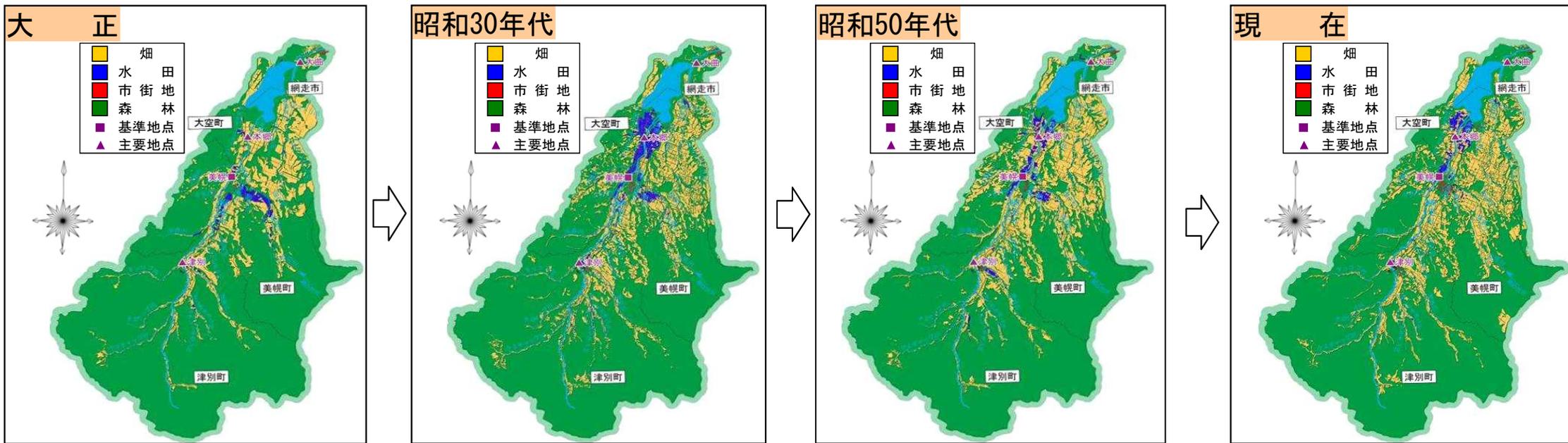


河川整備の効果

<ストック効果>

ストック効果(土地利用の変化)

◆ 網走川流域の低平地では、度重なる洪水・はん濫を契機に、昭和9年以降さまざまな治水対策が施され、土地利用は森林から畑及び宅地等の市街地へと拡大した。

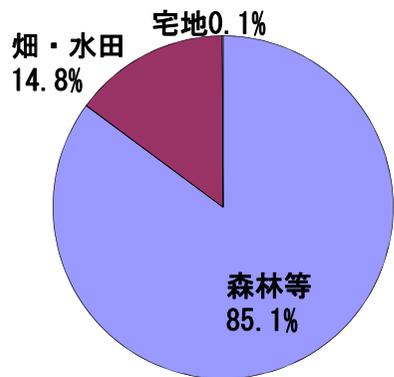


出典：大正12～13年の5万分の1地形図の地目より作成

出典：昭和29～30年の5万分の1地形図の地目より作成

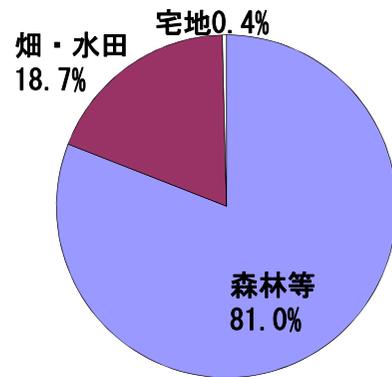
出典：昭和46～54年の5万分の1地形図の地目より作成

出典：平成3～7年の5万分の1地形図の地目より作成



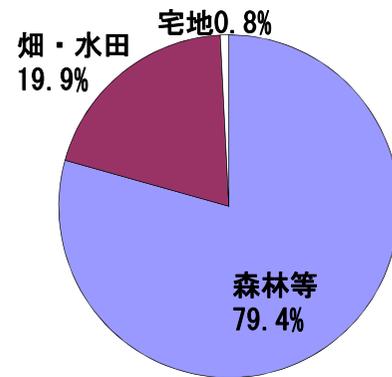
地目別土地利用の割合

出典：大正12～13年の5万分の1地形図の地目より読み取り



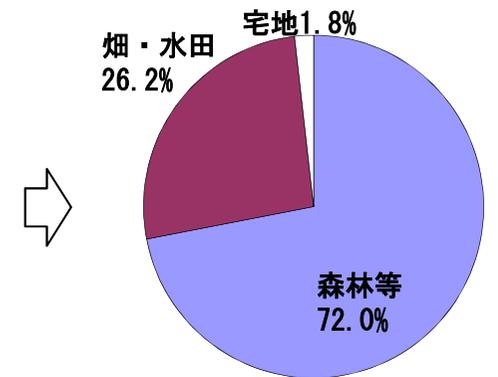
地目別土地利用の割合

出典：市町村勢要覧(昭和29年)の「地目別面積」より作成



地目別土地利用の割合

出典：市町村勢要覧(昭和51年)の「地目別面積」より作成



地目別土地利用の割合

出典：第129回(令和2年)北海道統計書の「地目別面積」より作成

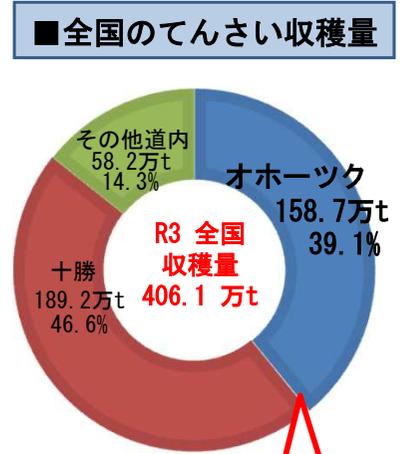
ストック効果(地域経済を縁の下で支える河川事業)

- ◆ 網走川流域では河川整備事業の進捗に伴い、河川周辺に市街地や農地が形成。
- ◆ 河川事業と並行して整備されてきた、国営かんがい排水事業などの農業農村整備事業の促進により、国内生産量の全てを道内で担うてんさいは、**オホーツク地方の生産量が全国2位(約4割)**を占めるなど、**地域経済の一翼を担う農業**を河川事業が支えている。

網走川



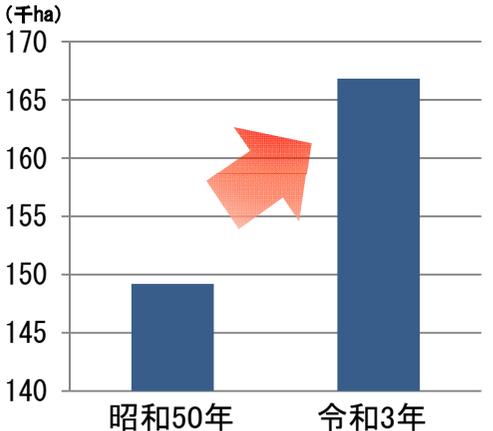
当工場は、『すずらん印』ブランドの砂糖を製造販売している。甜菜(ビート)を原料とした製糖が主力である



資料：作物統計令和3年度産市町村別データ

てんさいは全て北海道で生産
オホーツク地方の生産量は、全国2位(約4割)を誇る

オホーツク管内耕地面積



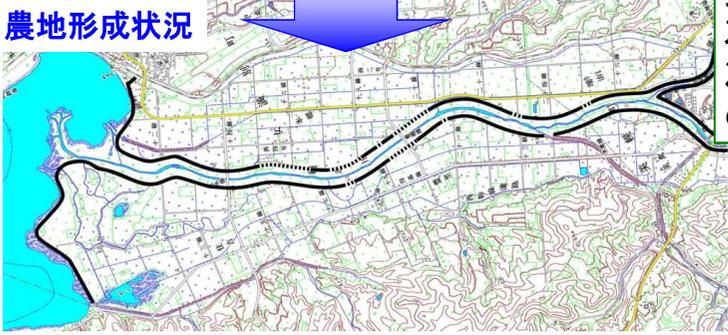
オホーツク管内の耕地面積は149千ha(昭和50年)から166千ha(令和3年)に拡大。また、管内4流域の氾濫区域の約80%が耕地であり、洪水により氾濫が生じた場合、農作物への大きな被害が生じ、各家庭への農作物の供給が滞ることが懸念される。

出典：オホーツクの農業2021(オホーツク総合振興局)

明治



現在



洪水氾濫防御および周辺の土地利用を可能とするため、築堤整備・新水路工事等の治水対策が進められた。

洪水被害

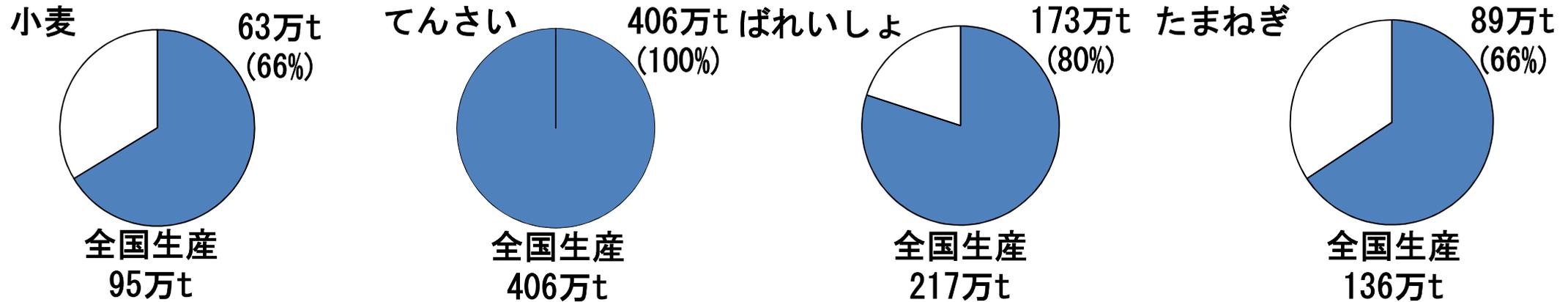
○平成4年9月洪水は戦後最大流量を記録。
○近年では平成4年9月、平成13年9月、平成18年10月、平成27年10月、平成28年8月豪雨等、大規模な洪水が発生。堤防の侵食等や浸水被害が発生



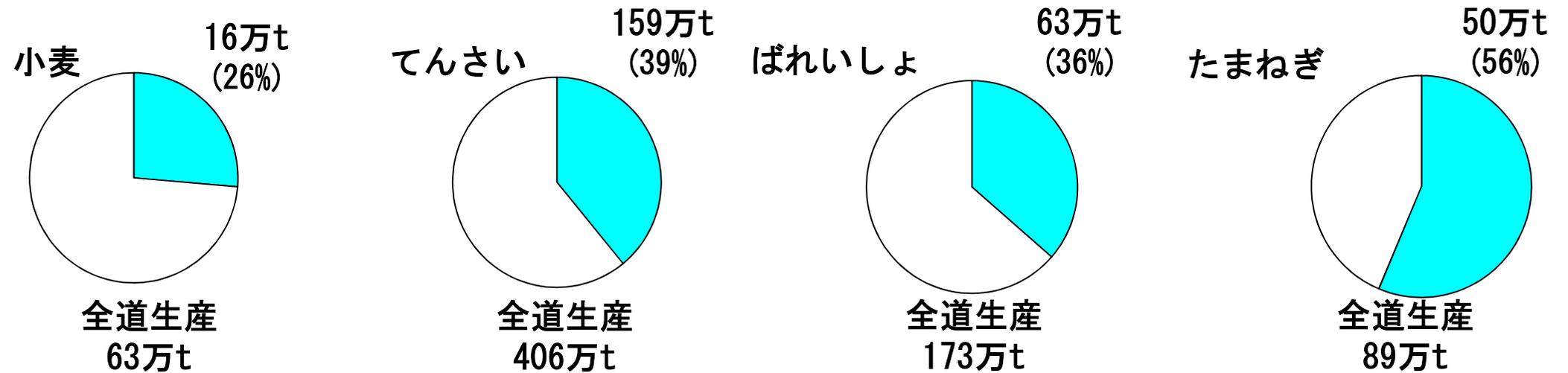
参考 主要農産物生産量（全国シェア、道内シェア）

- ◆ 北海道が日本一の生産量を占める農産物には、小麦、てんさい、ばれいしょ、たまねぎ などがある。
- ◆ オホーツク圏では、てんさい、ばれいしょ、たまねぎなどが、高い道内シェアとなっている。

■北海道が日本一の生産量を占める農産物



■オホーツク圏※の道内シェア



※オホーツク圏(北見市、網走市、紋別市、美幌町、津別町、斜里町、清里町、小清水町、訓子府町、置戸町、佐呂間町、遠軽町、湧別町、滝上町、興部町、西興部村、雄武町、大空町)